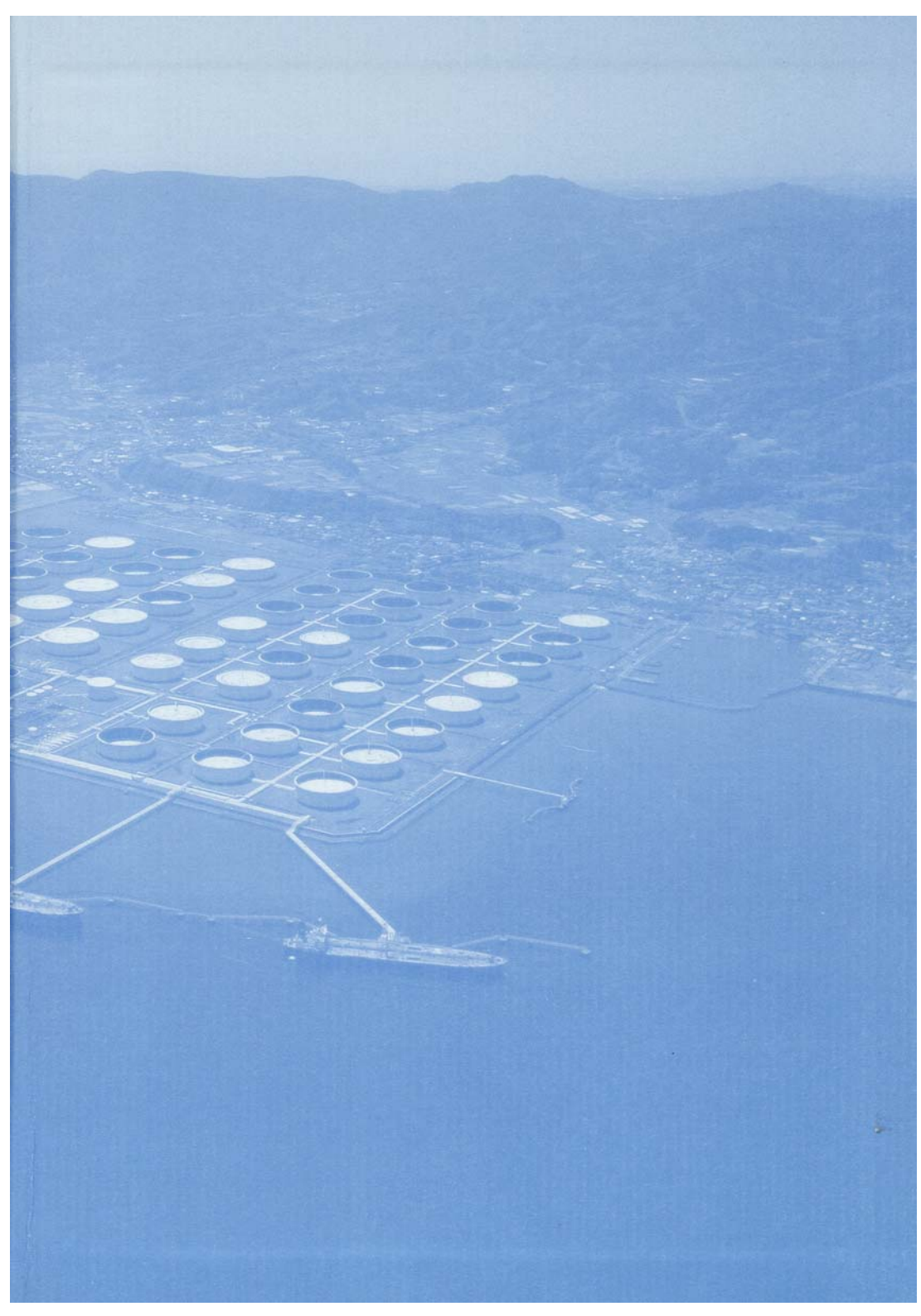
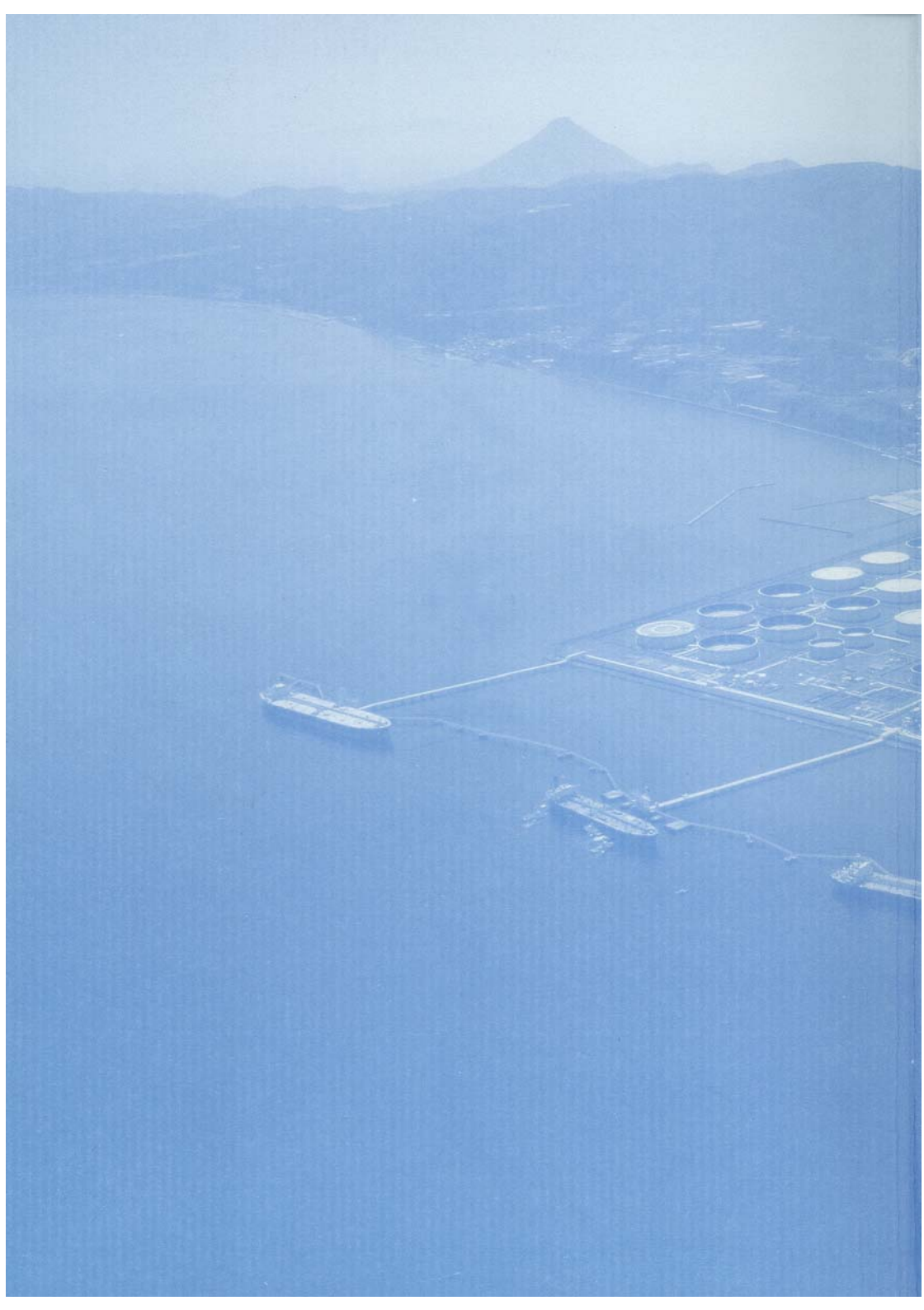


喜入町郷土誌

増補改訂版





喜入町郷土誌

増補改訂版



瀬々串地区



中名地区



喜入地区



一倉地区



前之浜地区



生見地区



町章 (昭和41年10月15日制定)

「きれい」の「き」をもとにして飛躍する姿と親和を三角形と円で表現し、中央部の型は、町民の連帯躍進の盛り上がるの姿と、祖先の豊かな遺産町有林の形、および特別天然記念物「めひるぎ」を合わせ型どったものです。

町花



ツワブキ

町木



メアサスギ

町民憲章

わたくしたちは、喜入町民として、さらに郷土愛の精神に燃えて、和をもって、よりうるわしく、ゆたかで住みよい町をつくるため、ここに町民憲章を定め、実践に努めます。

- 一、わたくしたちは、
ちからを合わせ、美しい町をつくります。
- 一、わたくしたちは、
きまりを守り、明るい町をつくります。
- 一、わたくしたちは、
からだをきたえ、健康な町をつくります。
- 一、わたくしたちは、
ともにいたらき、豊かな町をつくります。
- 一、わたくしたちは、
すすんで学び、文化の町をつくります。



瀬々串 相撲大会



中名
青のりの養殖



喜入 マリンピア施設



一倉 喜入の森



前之浜 チョイのチョイ踊り



生見 リュウキュウコウガイ (メヒルギ)



帖地遺跡地層図 断面



帖地遺跡地 縄文時代草創期 5点セット



帖地遺跡地 松山式土器（縄文時代後期）4個組土器のいれこのセット



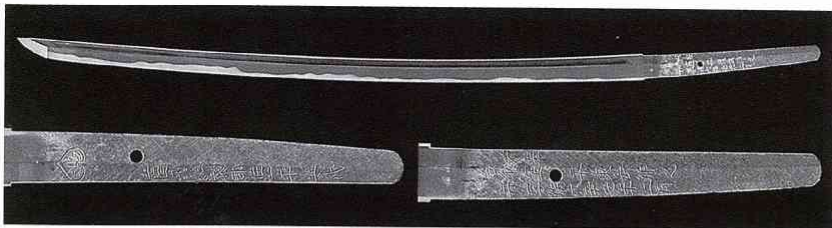
帖地遺跡地 2万5千年前のナイフ形石器



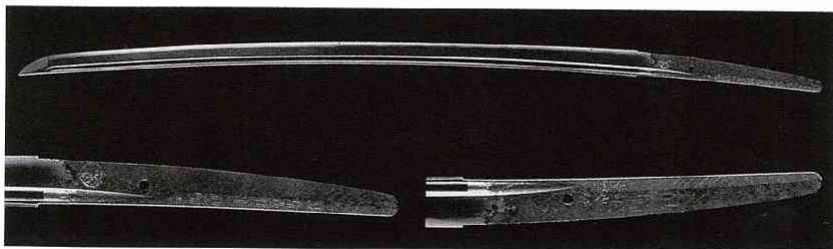
帖地遺跡の発掘調査風景



帖地遺跡地 帖地形石鏃（縄文時代早期 7,000年前）



重要刀剣 刀：銘 (一ツ葉葵紋) 薩州給黎郡住一平安代
 恭奉 台命至于東武作之 峯享保六辛丑年二月



県指定有形文化財 重要刀剣 刀：銘 (一ツ葉葵紋) 主馬首一平藤原安代
 遙奉 鈞命至薩州作之 享保甲辰年



六月灯 灯籠 (前之浜水神社)



新日本石油基地



県立公園 千貫平の春



親切運動宣言の町



海中道路（姉妹都市 沖縄県与那城町）

喜入町郷土誌発刊のことば

喜入町長 日 高 保

この度、喜入町郷土誌が発刊されましたことを心からお祝い申し上げますとともに、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり本町では既に昭和五十六年に出版された郷土誌が存在し、多くの人に広く愛読されているわけですが、その刊行以来二十数年の歳月が流れ、この間政治、経済、社会、文化などあらゆる面で大きな変遷がありました。

そこで、これらの動きを郷土誌の中に追記しておくことの重要性を痛感し、町制施行五十周年の記念事業の一つとして改訂増補の作業に取り組み、約四年の歳月を費やしここに発刊する運びになった次第であります。

内容の充実を図り、装いも新たに生まれ変わった喜入町郷土誌が、郷土を知る上で大いに役立つとともに、将来、私たちが生活していく上で心のよりどころとして、生かされるよう祈念申し上げます。発刊のことばといたします。

発刊に寄せて

喜入町教育長 内 蘭 哲 郎

喜入町は、本来、教育的風土に恵まれた町であり、伝統が大事に継承され、それが現代の文化と融合し、薫り高き文化の町・文教の町として、高い評価を受けています。

喜入町の歴史は、知り得る事実からすると、一二万五〇〇〇年の昔に遡及することができません。平成七年になって発掘された帖地遺跡の研究の結果、わたしたちの先人は遙か古代から西北九州との交流があったことが証明されました。

また、江戸時代の喜入は、領主肝付家により武芸や漢学が奨励され、麓を中心に郷中教育がさかんに行われていたことが判明しております。子どもたちは異年齢集団での活動を通して、切磋琢磨するとともに、大人社会は、青少年健全育成の気風づくりに努めていたことが考察されます。

さらに、明治時代の喜入は、振武館や立志館を中心に、学問を学び、武芸を身につけ武を尚

び、礼節を重んじる教育がなされていたことが分かっております。このように、喜入町は昔から文教の町としての道を歩み、今日に至っていますが、現在でも、親は子弟の教育に熱心であるとともに、青少年健全育成の風土が濃く残存しています。

かくして現代では、これらの伝統を引き継ぎ、これらを現代風に変換して教育・文化の振興を図るため、「喜入に学びの風を呼び起こし、こぞつて事をおこそう」をスローガンに掲げ、学校教育の充実、社会教育の振興、生涯学習の充実振興、親切運動の積極的推進に努めており、着実にその成果があがっていると考えています。

このたび「喜入町郷土誌（増補改訂版）」の発刊は、郷土の良き教育的伝統を生かし、郷土教育の充実振興を図る上で、貴重な資料になるものと信じております。町民の方々の積極的な活用をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この郷土誌の編さんに意欲的に取り組んでいただきました編集委員長を中心とする編集委員会の方々に、心から謝意を表するとともに、資料提供等ご協力を賜りました関係各位にお礼申し上げます、ごあいさついたします。

凡 例

- 一 本誌編集のための引用の資料は大要末尾に記載してあるが、あくまでも史実に基づき、その記述にとどめた。
- 二 本誌は、これを八編に分類し、第一編 喜入町の概況、第二編 原始・古代・中世の喜入、第三編 近世の喜入、第四編 明治以降の喜入、第五編 教育・文化、第六編 産業・経済、第七編 民生、第八編 喜入町の民俗・伝説・昔話の順で編集した。
- 三 本誌は、前郷土誌にならない、単に史とせず、誌として郷土の自然、政治、経済、産業、教育、文化、歴史等全般にわたるようにした。
- 四 用字は、できうる限り、常用漢字、現代かなづかいを用いた。しかし、固有名詞、慣用語、引用文等はこの限りでなく、漢字にはふりがなを付して読みやすいようにした。
- 五 年代は、わが国の年号に西暦紀元年数を併記し、解明に利便をはかった。
- 六 内容を具体的にわかりやすくするために、写真や図表等を多く掲載することに努めた。
- 七 度量衡で、尺貫法とメートル法は、その時代の使用にあわせて採用した。
- 八 人物の項は特に設けないで、各内容の中に適宜に略伝を記述することにした。氏名の敬称は略した。
- 九 本誌の末尾に、年表と字図を備え、年代の理解ならびに地名の解明の利便をはかった。
- 十 本誌の内容は、特別なものを除き平成十四年度末までとした。しかし、一部においては平成十五年に及んだものもある。

喜入町郷土誌 目次

喜入町郷土誌発刊のことば……………17
 発刊に寄せて……………18
 凡例……………20

第一編 喜入町の概況

第一章 自然……………3

第一節 位置と面積……………3
 第二節 地形・地質……………4
 第三節 気候・自然災害……………11
 第四節 動植物……………14

第二章 人口・集落……………17

第一節 人口……………17
 第二節 集落……………21

第三章 特色ある喜入……………23

第一節 親切運動推進の町……………23
 第二節 姉妹都市盟約……………26
 第三節 喜入会……………27

第二編 原始・古代・中世の喜入

第一章 原始の喜入……………35

第一節 原始のあらし……………35
 第二節 旧石器時代……………76
 第三節 縄文時代草創期……………83
 第四節 縄文時代早期……………87
 第五節 縄文時代前期……………88
 第六節 縄文時代中期……………88
 第七節 縄文時代後期……………89

第八章節	繩文時代晩期	98
第九章節	弥生時代	99
第十章節	古墳時代	100
第十一章節	平安時代	102
第二章	古代・中世の喜入	108
第一節	古代	108
第二節	鎌倉時代	116
第三節	南北朝時代	126
第四節	室町時代	128
第五節	戦国時代	132
第六節	織田・豊臣時代	135
第三編	近世の喜入	
第一章	近世前期の肝付氏時代	145
○初代兼三		145
○二代兼篤		150
○三代兼武		153
○四代兼屋		154
○五代久兼		159
○六代兼柄		165
第二章	近世後期の肝付氏時代	170
○七代兼達		170
○八代兼伯		177
○九代兼満		180
○十代兼殷		182
○十一代兼善		182
○十二代兼両		183
第三章	薩摩藩と外城(郷)制度	188
第一節	内城(鶴丸城)	188
第二節	外城(郷)の制度	189
一 外城(郷)の成立		189
二 喜入外城		192
第四章	郷士の生活	196
第一節	郷士(家中)の知行高	196

第一章 行政……………	245
第四編 明治以降の喜入	
第一節 郷土の生い立ち……………	201
第二節 郷土の文武……………	203
第四節 郷土の娯楽……………	205
一 狩猟……………	205
二 馬追……………	206
三 早馬……………	208
第五節 領主と郷土……………	208
第五章 農(庶)民の生活……………	211
一 喜入郷の七町五在……………	211
二 庄屋……………	212
三 門割制度と農民社会……………	213
四 農地の種目……………	224
五 農民の生活……………	226
六 農水産業の実態……………	233

第一章 学校教育……………	357
第一節 明治維新前の教育……………	357
第二節 明治・大正の教育……………	359
第三節 戦時下の教育……………	368
第五編 教育・文化	
第二章 財政……………	317
第一節 明治時代の財政……………	317
第二節 大正時代の財政……………	330
第三節 昭和時代の財政……………	337
第四節 平成の財政……………	345
第二章 財 政……………	317
第六節 喜入町(村)の行政に参画した人々……………	305
第五節 役場業務機構の推移……………	298
第四節 役場庁舎の変遷……………	296
第三節 町村制の実施と新しい喜入村……………	278
第二節 議会政治の発達……………	263
第一節 維新前後の体制とその後の制度の変革……………	245

第四節	勤労青年の教育	370	第二節	旧跡・文化財	478
第五節	戦後の教育	378	第三節	国・県、町の指定文化財	492
第六節	平成の教育	384	第五章	信 仰	500
第七節	学校沿革史	388	第一節	宗教の変遷	500
第二章	社会教育	430	第二節	神 社	501
第一節	社会教育概説	430	第三節	寺 院	512
第二節	生涯学習	431	第四節	その他の宗教	523
第三節	公民館	453	第六編	産業・経済	
第四節	町立図書館	458	第一章	農 業	527
第五節	文化活動	460	第一節	主食本位の農業	527
第三章	社会体育	463	第二節	農業形態の変遷	530
第一節	概況と社会体育施設	463	第三節	耕地整理	545
第二節	町体育協会	465	第四節	農地改革と農業委員会	547
第三節	体育指導委員とレクリエーション協会	466	第五節	新農村振興運動	551
第四節	スポーツ少年団活動	468	第六節	農業構造改善事業	553
第四章	文化財	469	第七節	農業団体	558
第一節	史 跡	469			

